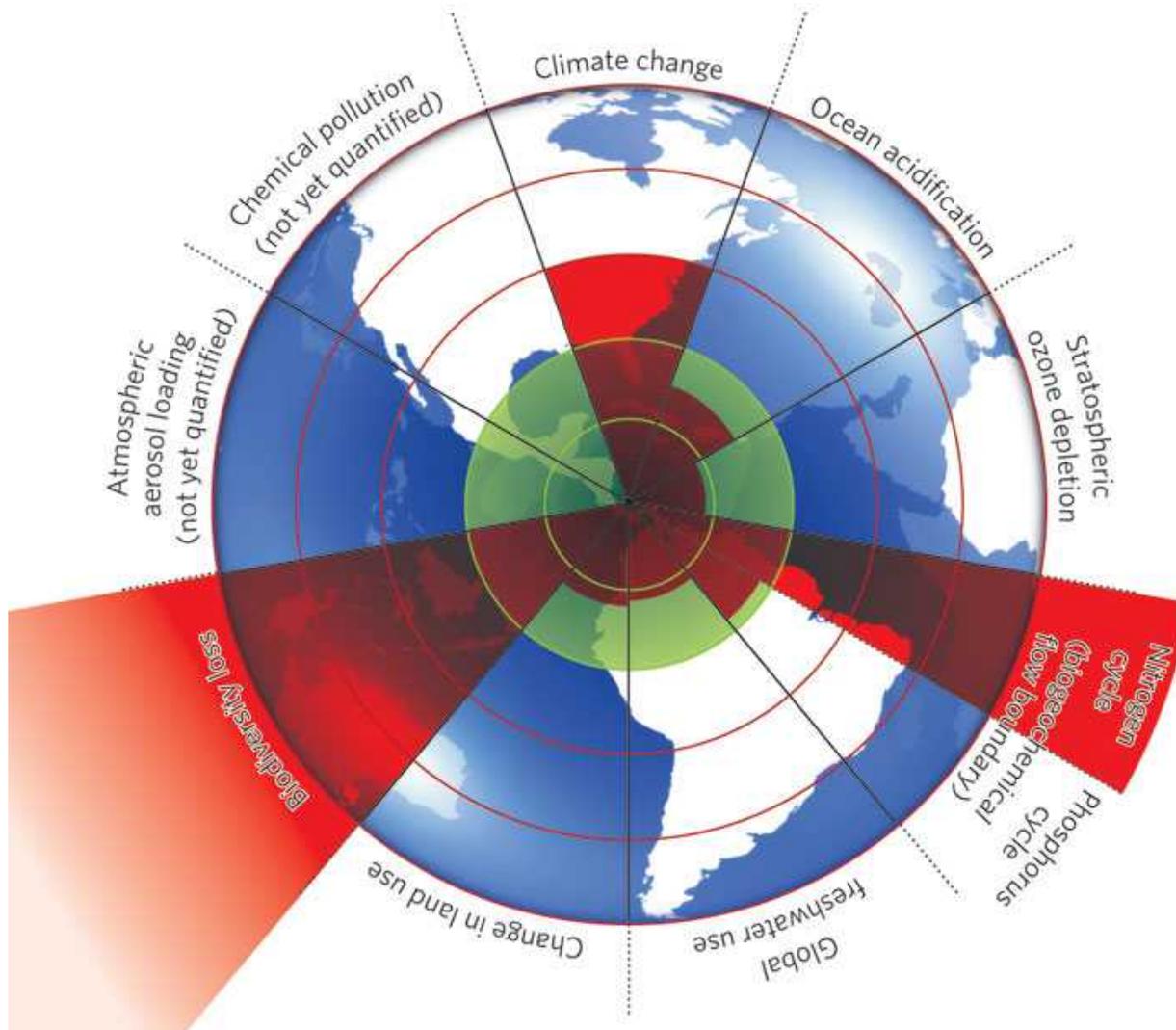


フューチャー・アースについて - 日本の取組 -

日本学術会議
国際担当副会長 春日文子

Planetary boundaries

A safe operating space for humanity



- Johan Rockström *et. al.*
- Nature 461, 472-475 (24 September 2009)
- Figure 1: Beyond the boundary.

Future Earthとは

持続可能な地球環境についての国際協働研究イニシアティブ

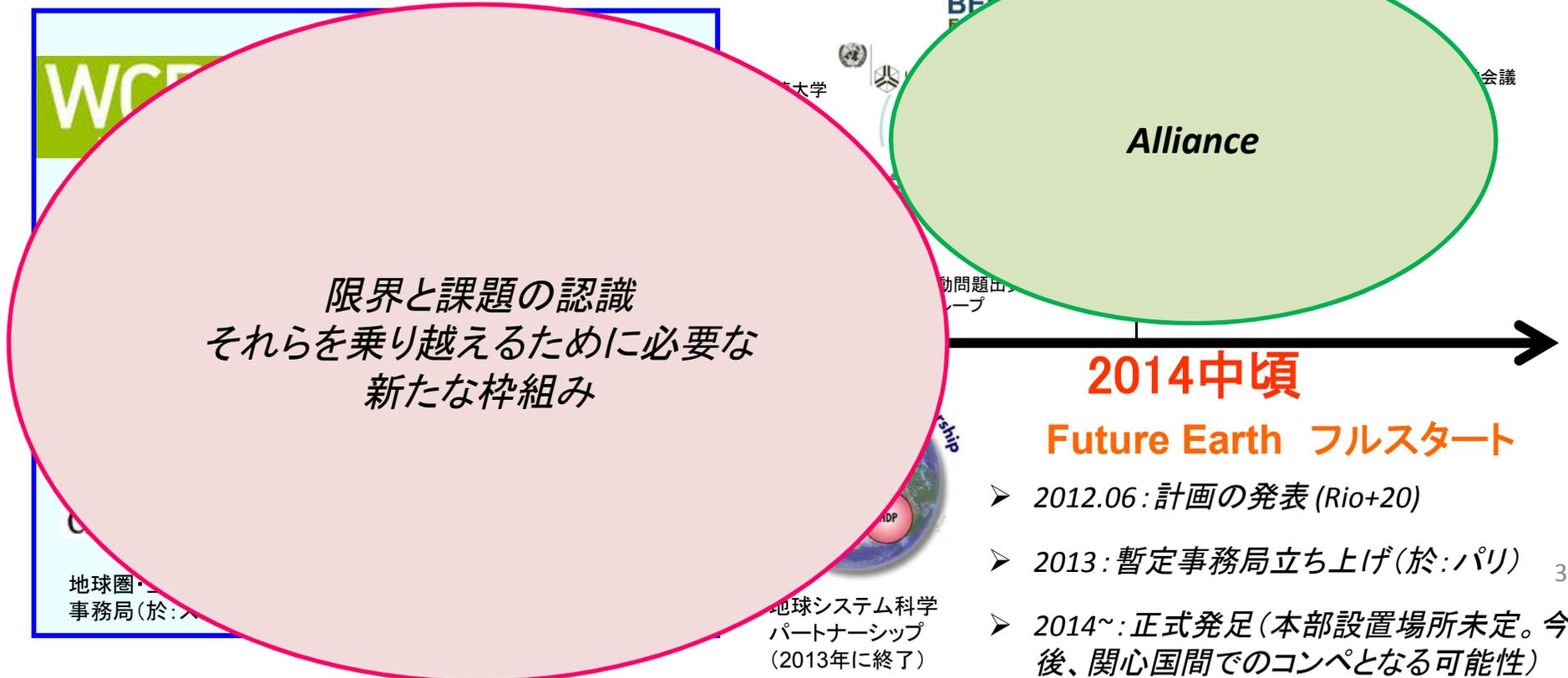
(Future Earth: research for global sustainability)

- 国際科学会議 (ICSU) 等の学術コミュニティを中心として、ファンディング・エージェンシーや政策決定者等と協働し、気候、物質循環、生物多様性、人間活動を含め、地球の変動を包括的に理解し、地球規模課題の解決に資する研究の総合的な推進を目指す国際協働の枠組み。

- 上記目的の達成のため、以下の点を重視

- ・課題解決型
- ・自然科学や社会科学の枠を越えた統合的・学際的な研究
- ・政策決定者や利害関係者の研究立案段階からの参画

トランスディシプリナリーな研究
(trans-disciplinary)



限界と課題の認識
それら乗り越えるために必要な
新たな枠組み

Alliance

2014中頃

Future Earth フルスタート

- 2012.06: 計画の発表 (Rio+20)
- 2013: 暫定事務局立ち上げ (於: パリ)
- 2014~: 正式発足 (本部設置場所未定。今後、関心国間でのコンペとなる可能性)

Future Earthとは

持続可能な地球環境についての国際協働研究イニシアティブ

(Future Earth: research for global sustainability)

- 国際科学会議 (ICSU) 等の学術コミュニティを中心として、ファンディング・エージェンシーや政策決定者等と協働し、気候、物質循環、生物多様性、人間活動を含め、地球の変動を包括的に理解し、地球規模課題の解決に資する研究の総合的な推進を目指す国際協働の枠組み。

○ 上記目的の達成のため、以下の点を重視

- ・課題解決型
- ・自然科学や社会科学の枠を越えた統合的・学際的な研究
- ・政策決定者や利害関係者の研究立案段階からの参画

トランスディシプリナリーな研究
(trans-disciplinary)



Future Earthの研究課題の例 (ICSU HPより)

- 地球システムの変化(気候、物質循環、生物多様性、人間活動を含む)をモニターし、予測する。
- 地球が生命を維持する能力の限界やティッピング・ポイント(Tipping Point)*について、早期に警報を発する。
- 政策や人間行動の変化、イノベーションに関する研究などを通じて、政策や事業と科学的知見とを繋ぐ。
- 地球変動を科学的に評価する取組(例:IPCC、IPBES)に対して貢献する。
- 持続可能な開発のための目標(SDG)の達成に向けた進捗の評価を支援する。
- 地球環境に関する情報(データ、観測、モデリング等)を統合する革新的なアプローチを促進する(ビッグデータサイエンス)。
- 持続可能性のための研究を支える若手研究人材の育成を図る。

*) 「ティッピング・ポイント (Tipping Point)」

少しずつの変化が、不可逆性を伴う急激で大規模な変化になってしまう転換点

Timeline towards implementation



シェア

★お気に入り

Future Earthへの我が国の対応(1)

**International Conference on
Science and Technology for Sustainable Societies
“Building from regional to global
sustainability: Visions from Asia”
September 14-16, 2011, Kyoto, Japan**

Organized by the Science Council of Japan (SCJ)

Co-organizers:

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)

BCES-GCOE Program of Nagoya University

GCOE Programs of Hokkaido University and Tohoku University

Co-sponsored by International Council for Science (ICSU)

Future Earthへの我が国の対応(2)

各種国際会議への参加とプレゼンテーション

- International Conference on Planet Under Pressure, March 27, 2012, London, UK
- Future Earth Regional Workshop for Asia-Pacific, November 21-23 , 2012, Kuala Lumpur, Malaysia
- Belmont Forum meetings

Future Earthへの我が国の対応(3)



Global Environmental Change-Japan



大学共同利用機関法人 人文文化研究機構

総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature

International Symposium on Future Asia

13-14 December 2012

RIHN Lecture Hall, Kyoto, Japan





日本学術会議の組織 (平成25年4月現在)





Future Earthへの我が国の対応(4)

日本学術会議内の関係委員会等

- 国際委員会

(機能別委員会の一つ)

- ICSU Unionsに対応する約20の分科会
- IGBP/WCRP/DIVERSITAS (IWD)合同分科会* ならびに IHDP分科会
- IRDRを含む、ICSUの他の横断的プログラムや委員会に対応する分科会*

* 昨年、これら各分科会間の連携、情報共有を深めるための小委員会ならびに連絡協議会を設置

- 第一部国際協力分科会 (IFSSO, IEA, CISHなど、人文・社会科学系国際学術団体に対応)
- ISSCへの加盟は早急に必要、準備中
- Future Earthに対応する新委員会を設置予定

Future Earthへの我が国の対応(5)

関係諸機関による連携

既に連携開始

- 研究機関
 - RIHN, NIES, IGES
 - 新研究プロジェクト計画
- 府省
 - 文科省、環境省、外務省、内閣府
- 国際機関
 - ICSU (ROAPも含む)
 - UNESCO
 - 国連大学

今後必要な連携

- Funding Agencies and Programs
 - JSPS, JST, SATREPS (JST & JICA)
- 他の関係機関
 - 経産省、自治体、大学、NGOs, NPOs, etc.



Future Earthへの我が国の対応(6)

○邦人の推薦

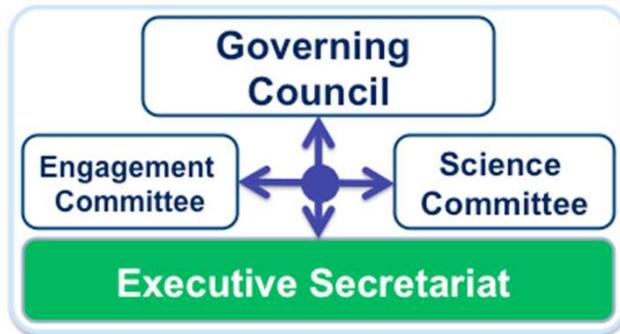
- 科学委員会（世界から18人の研究者を募集）
 - 日本学術会議及び文部科学省より研究者を推薦済、現在選考中
- 暫定事務局長
 - 邦人1名が申請、文科省・日本学術会議・ICSUアジア太平洋地域事務局から推薦、現在選考中

○本部事務局の誘致

- 今後、ICSUのメンバーに対し本部誘致についての意向確認が行われる見込み
- 日本への期待
- **早急に協議が必要(関係機関、予算)**

○ 文科省の取組み

日本におけるFuture Earth組織案



Governance of Future Earth

